

【令和6年度用 様式1ー表】 令和6年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	35	豊田市長 東山小 学校	代表	杉本 康弘
------	----	-------------	----	-------

※分野【a:国際交流・国際理解、b:地域連携、c:自然体験、d:環境教育、e:学力向上、f:交流体験、g:福祉・ボランティア、h:伝統文化、iその他( )】から選ぶ。

テーマ	地域の教育力を生かした「知・徳・体」のバランスのとれた東山っ子の育成	分野	b	地域連携
	サブテーマ 地域連携、異学年交流、健康教育を通して	i(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点（ねらい）	<p>○地域ボランティア等を活用したクラブ活動を通して、地域との交流や学ぶ楽しさを体験することで、「知・徳・体」のバランスのとれた東山っ子を育成する。</p> <p>○日本の伝統芸能である「茶道」「日本舞踊」の講座を設け、地域ボランティアの指導のもと、伝統芸能を体験する。</p> <p>○「体力づくり」や「体を動かすことの楽しさを味わう」ことを目標とした講座を設け、地域ボランティアやクラブ講師の指導のもと、楽しみながら体力向上を目指す。</p> <p>○「読み聞かせ」「登下校の見守り」「授業サポーター」等のボランティア活動を保護者から募集することで、地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、地域の教育力を教育活動に生かす。また、学校ホームページ等でその様子を情宣する。</p> <p>○異学年交流活動であるわくファミ活動(集団遊び、話し合い活動、制作活動等)、および健康教育を通して、「知・徳・体」のバランスのとれた東山っ子を育成する。</p> <p>○校内整備員を配置し、環境面の整備について連携することで、子どもたちにとって安心・安全な教育活動が実践できるようにする。</p>			
活動内容・計画	<p>○地域ボランティア等を活用したクラブ活動の展開</p> <p>・「茶道」「日本舞踊」「体力づくり」「フラッグ」「プログラミング」「フラッグフットボール」「読書」「卓球」「ソフトボール」「バスケットボール」「オセロ・トランプ」の11の講座を設ける。講師は、本校保護者によるボランティアや地域ボランティア、美里交流館に登録している自主ボランティア団体、美里スポーツクラブの体育指導員等に依頼する。</p> <p>・「茶道」や「日本舞踊」では、日本の伝統芸能を体験する活動を通して、礼儀や作法等を学ぶ。「体力づくり」「フラッグフットボール」「ソフトボール」「卓球」「フラッグ」では、専門的な技能を学びながら、体力の向上を図る。「プログラミング」「読書」「オセロ・トランプ」では、作業・操作等の実践的な活動や友達との触れ合いを通して、それぞれの技能の向上やその楽しさを味わう。</p> <p>・地域ボランティア等との交流を通して、人としての生き方を学ぶとともに、他者への感謝の気持ちや思いやりの心を育てる。また、地域の良さに触れる機会とする。</p> <p>○地域ボランティアを活用したその他の取組</p> <p>・地域ボランティアを募り、「読み聞かせ」「選書」「図書館整備」「授業サポーター」「行事サポート」などの教育活動に積極的に参加していただくことにより、児童の社会性の向上と豊かな心の育成に努める。</p> <p>○学校保健大会などの健康教育に関する教育活動に、地域ボランティアや補助員を講師として招請し、講演会や体験活動を行うことで、児童の健康についての意識の向上を図る。</p> <p>○わくファミ活動という異学年との関わりを通して、豊かな人間関係作りを経験し、他者への思いやりやつながりを大切にする心を育む。</p> <p>○特色ある学校づくりの具体的な活動内容について、学校ホームページや学校だよりなどで情報を発信することにより、地域の理解が深まることをねらう。</p>			
補助員配置	校内整備員 13			
実績・期待される効果	<p>○地域ボランティアの協力を得たクラブ活動等の教育活動により、児童と地域とのかかわりが増える。地域の人や施設、ボランティア団体、保護者等、多くの人に支えられていることに気づくことで、地域への感謝と地域を大切にしよう、地域に貢献しようという気持ちにつながる。と考える。</p> <p>○地域ボランティアが学校の教育活動にかかわることで、地域ぐるみの教育を展開することができる。さらに、活動の様子を学校ホームページや学校だよりを通して、公開・発信することにより、地域の学校に対する信頼感と理解が深まると考える。また、地域の教育力の向上にもつながると考える。</p> <p>○これらの教育活動を通して学んだこと(あいさつや思いやり、つながりや感謝など)を、日常の生活場面で生かし、地域の一員としての自覚や地域を大切にしようとする気持ちを高めることができる。</p> <p>○健康教育活動の充実を図り、その活動を保護者や地域に発信することで、保護者を含めた地域全体で健康についての意識を高めることができる。</p> <p>○異学年交流活動を継続して行うことにより、発達段階に応じて、他者を意識し思いやる気持ちや人とのつながりを大切にする気持ちを高めることができる。</p>			
検証方法	<p>○保護者に対する学校評価アンケートやPTA理事会での意見交換、学校運営協議会での意見交換などを通して、学校外部の意見を聞き、次年度の取組の参考とする。</p> <p>○「地域ボランティアの方々に感謝する会」において、児童が地域ボランティアに対して、感謝の気持ちを表す活動を行う。また、この活動を振り返る作文を書くなどして、児童の意識を確認する。</p>			